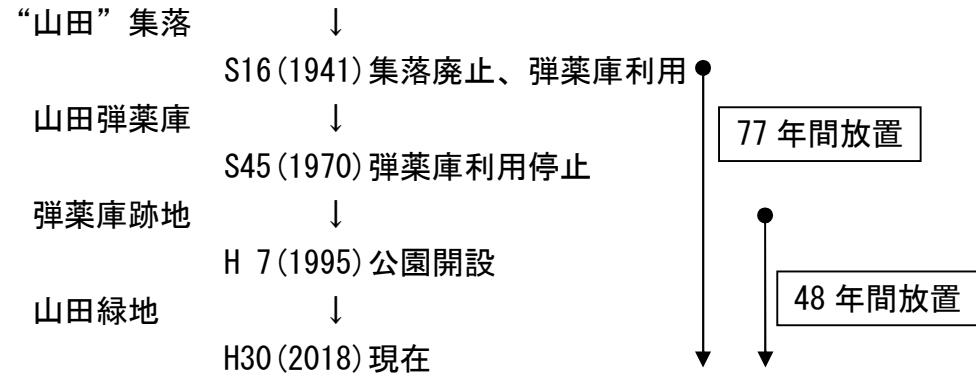


#### IV 萌芽林管理計画箇所のコナラ林について

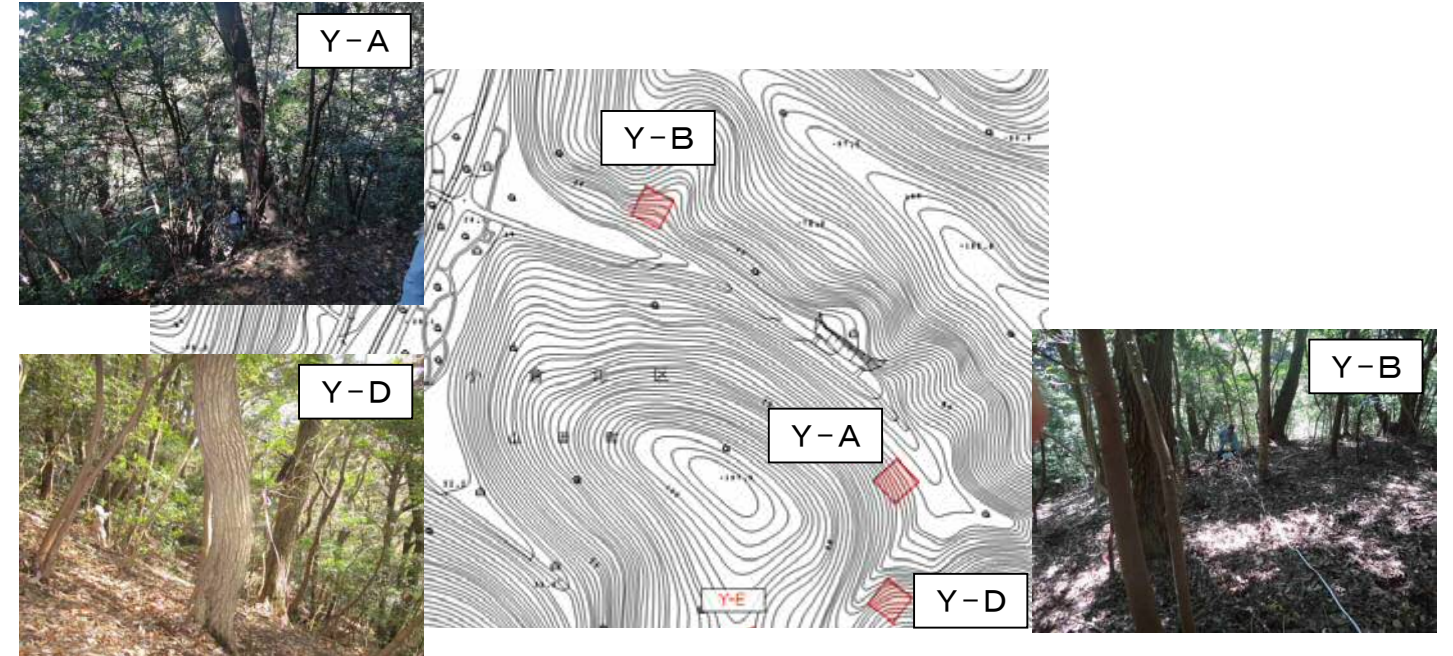
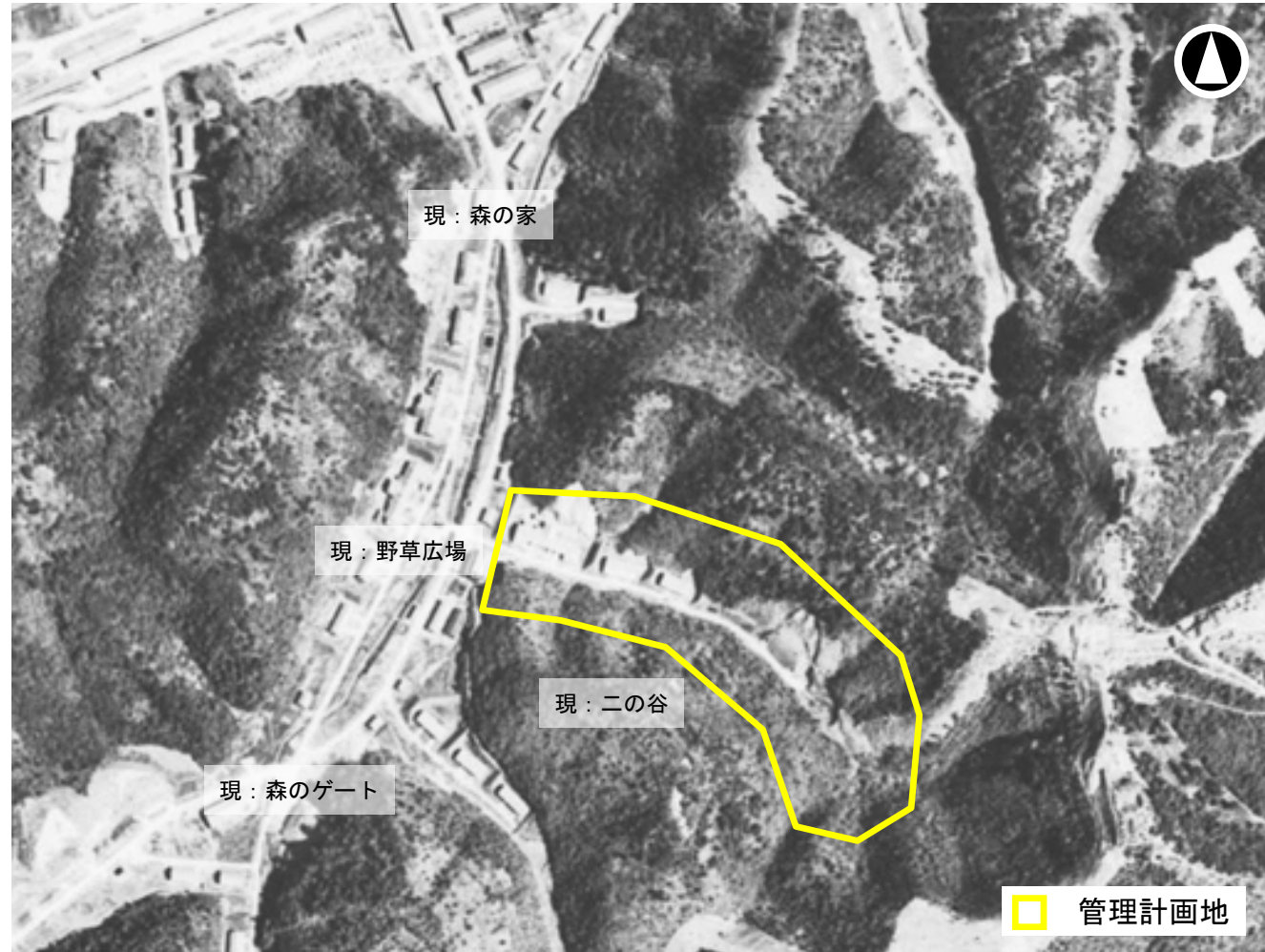
##### 1 山田緑地の土地利用履歴



##### 2 コナラ萌芽林管理計画地の林分について

###### (1) S28の航空写真から

道路（現在：園路）北側は伐開されていた。



Y-A ⇒20年前はマダケが優勢な林だったが、近年はシロダモやヤブツバキなどの常緑広葉樹が優勢になりつつある林

Y-B ⇒コナラやノグルミなどの落葉広葉樹とツブラジイやタブノキなどの常緑広葉樹の混交林。コナラの樹齢は約70年生と推定される

Y-D ⇒コナラやネムノキなどの落葉広葉樹が優勢な林。

※計画地は竹林（Y-A）、少なくとも70年程度放置されたコナラ林（Y-B、Y-D）と推測される。

##### 3 萌芽林としての管理方法について

###### (1) コナラの萌芽力

幹が高齢化し大径化すると萌芽能力が低下する（韓・橋詰 1991）。

萌芽力は20年生程度で旺盛。

###### (2) 計画地のコナラの樹齢

計画地の樹齢は20年生以上が多数を占める。

###### (3) 計画地での管理方針

萌芽更新のみによる萌芽林の形成は困難

**萌芽更新+苗木の補植**

1周期（20年間）管理を続け、20年生を主体とするコナラ萌芽林を形成する。

